



## 2022 年度 第 2 回理事会議事録

1. 日 時：2022 年 12 月 8 日（木）13：30～14：30
2. 場 所：サイカパーキング(株) 7F 会議室及びオンライン
3. 出席者：古倉宗治会長、工藤智彰副会長、武岡雅則副会長、三橋美和副会長、  
内田勉、小澤克年、関根正美、星淳一、大橋純子、田中伸明、久富宏大  
陪席：山田慧史（OpenStreet）  
事務局：青木美雪、野口佐知  
（理事 11 名、陪席 1 名、事務局 2 名、総計 14 名）  
※ 75 名はオンライン（Teams）出席者

### 4. 内 容：

#### 《報告事項》

#### ① ロードマップ進捗状況

- 予定通り進んでいることを報告した。
- 質疑応答は特になかった。

#### ② 行事報告（JIC/JSCA 研修会報告）

- 報告書の通り報告し、特に質疑応答はなかった。

#### ③ 会計報告

- 予算のうち、2022 年収入合計が 6,792,050 円、前期繰越額が 10,763,841 円、収入合計が 17,555,891 円。支出のうち 2022 年度支出合計が 16,479,000 円、2022 年度収支が-9,686,950 円、次期繰越額が 1,076,891 円となっている。  
11 月末時点の収入累計が 5,578,697 円、支出累計が 1,788,490 円、次期繰越額が 14,554,048 円となっており、残高証明書と一致していることを報告した。
- 事業費用の図書・印刷費、「7. 冊子制作代」が、予算 250 万に対して 5 万円弱使用、「10. 調査委託費」が予算 600 万円の所まだ使われていないことについて質問があり、「シェアサイクル便覧」を作成するための費用だったが、国交省とどのようなものを作成するかという話が纏まってなく、まだ使用されていない状況となっていることを報告した。
- 去年と予算金額が非常に違うことについて、昨年度はコロナのためほぼ中止で動きが無かったが、今年から色々な行事を開催し支出があるためと説明があった。

#### ④ 新自転車安全利用五則

- 自転車安全利用五則が新しくなったことを報告した。

##### 【変更点】

子どもはヘルメットを着用→すべての利用者が着用に努める  
車道寄りを徐行は義務だが、強調が無くなった。

#### ⑤ 東京都スマートフォンによる体験型自転車安全利用教育アプリ

- 体験型アプリで2月に都立高校を中心にリリース予定。リリース後にJSCA事務局より会員へ情報提供予定。
- 自転車通勤の要件として合格証を活用という一文があるため、今後この合格証が無ければ通勤として自転車を利用できない等の状況が予想される。

#### ⑥ 仙台市自転車の安全な利活用推進計画検討委員会への推薦

- 今までドコモ・バイクシェアの武田様をお願いしていたが、転勤に伴い、後任として同社大橋様にご就任頂いたことを報告した。

#### 《検討事項》

##### ① JIC/JSCA 合同賀詞交歓会について

- コロナ前：立食、招待来賓 83 名  
コロナ後：着座、お弁当、アルコール無、招待来賓 34 名  
※ 今までより来賓を絞って招待予定。JSCA 顧問に関しては案内状を送付することとなった。実際の参加来賓者は 20 名程度と予測。
- 他に来賓したい方がいる場合は事務局に事前にご相談いただくこととなった。
- 流れとして、  
来賓紹介→挨拶→名刺交換時間(10-15 分)→着座でお弁当・お茶提供→中締め無、食事終了後自由解散  
とすることとした。
- 来賓は席を指定、来賓の中に会長・副会長をちりばめ、その他会員は自由席とする。席次表を作成し、来客へ配布予定。
- 会員も絞るため、案内状に「1 社 2 名程度」などと表記することとした。全体の参加人数は 70-80 名くらいになると予測(コロナ前が 100 名程度だったため、2 割程度減)。
- 感染対策などもホテルと打ち合わせし万全を期せるよう対策する。
- 参加費 1 万円で承認を頂いた。
- リボン・名札の有無は、席次表配布予定で来賓の方の場所は分かるため、  
来 賓：リボン→全員付ける      名札→無し  
会 員：リボン→無し              名札→有(名刺を中に入れる)

とすることとした。

## ② 第13回全国シェアサイクル会議ポスターセッション出展

- 出展に当たりシェアサイクル協会で用意するポスターについて、加盟している事業社のポート数・自治体数などをまとめてグラフにし、シェアサイクルの概要を伝えられるものを提示予定と報告した。
- 事業社にも登録いただいているため、国交省からの詳細が分かり次第、ご連絡をする。
- シェアサイクル協会からも講演予定であり、シェアサイクルの普及しない大きな原因の一つとして事故の懸念があるが、車と自転車の事故件数を人口10万人当たりで比べてみると、死傷事故も死亡事故件数も自転車が三分の一から五分之一だという警察庁のデータを用いて自転車の安全性を説き、また雨の日なども年間で見たら通勤通学時にはわずかであるなど自転車そのもののメリットと保険が加入されていることやメンテが定期的されていること、盗難や放置がないなどシェアサイクル独自のメリットを説明するなど、シェアサイクルの普及につながる内容を講演する予定と説明した。

## 《その他》

- 安全への意識について、いろいろな所で取り組みされているが、先ほどのアプリなど、さらに周知できるものがあればいいと考えている。東京都からのアプリや使用した際の許可証などを活用していければ(許可証が無ければ乗れない→一度やってみましょうなどの流れ)、と話があった。
- 宇都宮大学の大森先生という方がアプリを使ってルールを学習させその効果を図った結果、普通のポスターよりアプリの方が現代的で効果が高いなどの話があった。アプリを活用し、交通安全のモラルの向上を考えていきたい。
- 自転車の走行空間が整備されたため、車道を走る自転車を見かけることが増えてきた。しかし歩行者の信号で走ってしまったり、逆走なども見かけるため、先ほどのアプリも含め、そこら辺の交通安全ルールの理解が広まってほしい。事業者としてその観点で協力していきたい。
- 歩道と車道の事故率について調べたところ、体感として車道を走る自転車が増えてきたにもかかわらず、歩道の子どもでの事故率が高まっている(2006年8%、2008-2014年9%台、2015-2016年10%台、2018年11%台、2019-2020年12%台、2021年13%)。車道では逆に横ばいあるいは微減となっている(2006-2009年8%、2011-2016年9%台、2018-2021年8%台)。去年の数値で比較すると歩道に比べ車道は5%ほど低い数値(13%台対8%台)となっている。歩道は安全という意識があるが、データでみるとそんなことはない。
- 歩道の事故の大半が車との事故となる。(コンビニなどの駐車場から車が出るときなどの事故)また歩道を走る自転車の割合が減り、走りやすくなりスピードを出すなどが事故に

つながっていることも考えられる。

- 歩道を走る際は「車道寄りを徐行」が浸透すれば事故は減っていくことが予想される。利用者の皆さんにこのような話も何らかの機会に知らせていければと考えている。
- 最近の事故を知る限り案安全対策は必要と感じている。派手な対策を1・2するというよりは、細かく繰り返し対策・情報を利用者へ少しずつでいいので伝え意識を継続的に持っていく仕組みづくりと材料を集めることが必要と感じている。継続的に協会や皆様とも連携し利用者へ届けられたらと考えている。

また、技術的なところで、センシングの精度を上げ自転車の走っている場所・速度を行政側へフィードバックし、自転車専用道路の整備の加速につなげたり、危険な道路の情報を伝えていくなどが、交通安全についてできるところと考えている。

まだまだ実験的な所だが国交省との連携の中で、スマートシティの施策で自転車の走行データを活用した自転車走行空間の整備等の実績を訴えるよう取り組んでいる。

等の話をした。

=参考資料=

・ 2022年度組織図

#### 4. 次回理事会・部会予定

◎理 事 会：2023年3月9日（木）13:30～14:30

◎総務・技術・広報合同委員会：2023年2月9日（木）13:30～14:30

#### 5. 次回行事予定

◎JIC/JSCA 合同賀詞交歓会：2023年1月19日（木）12:00～13:00（KKR ホテル東京）

以上の議事の経過及びその結果を明確にするため、本議事録を作成し、代表理事がこれに記名押印する。

2022 年 12 月 19 日

一般社団法人 日本シェアサイクル協会

代表理事

古倉 宗浩

